

平成28年度（2016年度）
事業計画

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

平成28年2月作成

所 信

昨年10月の鈴木大地前会長のスポーツ庁長官就任に伴い、会長を務めさせていただくことになってから、4カ月余が経過いたしました。その間、皆さまからの温かいご支援ご協力をいただき、各事業が滞りなく順調に推移しておりますこと、ここに改めまして感謝申し上げます。

本年度の水泳界は、リオ・オリンピックの前年として、また、その先の2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大きく動きだした年でした。競技面では、8月カザンの世界選手権競泳で金メダル3つ、シンクロが8年ぶりにメダルを獲得したこと、さらに12月のアジア選手権で水球男子が優勝して32年ぶりのオリンピック出場権を獲得するなどうれしいニュースが続きました。また、普及面では8月14日に「水泳の日」を開催し、成功裏に終えることができました。水泳界として初の試みでしたが水泳の普及、裾野を広げる意味において、新たな可能性を感じるイベントとなりました。そして10月には鈴木大地前会長が初代スポーツ庁長官に就任するなど、水泳界のみならず日本のスポーツ界にとって変革の年となりました。今年度も余すところ数大会を残しておりますが、これらも順調に推移する見込みです。皆さまのご理解とご支援の賜物と重ねて感謝申し上げますとともに、今年度事業の完遂に向けて気を緩めることなく、引き続きのご尽力をお願いする次第です。

さて、平成28年度事業計画作成に当たっては、いよいよオリンピックイヤー「勝負の年」となります。まず、競技力向上事業に関しましては、競泳は4月に開催されます日本選手権で代表選手を選考し、高いレベルで五輪にチャレンジする選手を増やしていきたいと考えております。飛込については、2月にリオデジャネイロで開かれるワールドカップで出場権の更なる獲得をし、世界レベルへの実力アップに注力いたします。水球は、一戦一戦を丁寧に、上位進出を目指すだけでなく、その先の東京オリンピックを見据え果敢に挑みます。シンクロは、世界選手権に続いてオリンピックでのメダル奪還を目標に、徹底的な強化を実施してまいります。また、OWSにつきましては、6月の最終予選で出場権を獲得して、競泳、飛込、水球、シンクロ、オープンウォーターの全競技のオリンピック出場を目指します。その上で、各部門を通して「センターポールに日の丸を」の実現を目指し、さらに連携を強固にしながら、より高いレベルで戦う選手をより良い状態でオリンピックに送り込めるように、取り組んでまいります。

次に、競技運営事業としては、アスリートファーストの考え方の下、競技役員・国際審判員の養成、ボランティアスタッフの育成など、2020年への機運を醸成し、次世代につなげていきます。また、5月には水球ワールドリーグ、10月競泳ワールドカップ東京大会、11月にはアジア選手権と国際大会が連続します。各大会を通してアスリートが最高の力を発揮できるよう、関係者一丸となって取り組んでまいります。

指導者養成事業では、スポーツ現場における暴力行為等の根絶に向けた指導者の資質向上と共に量的拡大に取り組んでまいります。普及事業としては、2回目となる『水泳の日』(8月14日)は、オリンピック大会期間中となりますので、水泳競技の新しい楽しみ方、面白さなどを未来の子どもたちに伝え、水泳人口の裾野の拡大につながるような取組みとなることを企画しています。総務事業では、ガバナンスの順守を第一に、関係機関・団体等との連携強化・協働を図るとともに、自主的な財源の確立、マーケティング活動の推進に取り組んでまいります。

最後となりますが、本連盟を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況であることを認識しなければなりません。日本の水泳界が、着実な前進を続けるために、柔軟な思考に基づくポジティブな行動力の発揮が強く要求される所です。各加盟団体をはじめ関係の皆さまのなご一層のご理解ご支援をいただきたく、よろしくごお願い申し上げます。

平成28(2016)年2月28日

会長 青木 剛

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競技会	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	平成31(2019)年度
競 泳	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	パンパシフィック選手権大会			◎	
	アジア選手権大会	○			
	世界選手権大会(25m)	○		○	
泳	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会			○	
	世界ジュニア選手権大会		○		○
	ジュニアパンパシフィック選手権大会	○		○	
飛 込	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	FINAワールドカップ			◎	◎
	アジア選手権大会	○			
	FINAワールドシリーズ			○	
込	アジアエージ選手権大会		○		○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
水	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	アジア選手権大会	○		○	
球	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会(U17)		○		○
	アジアジュニア選手権大会(U19)	○		○	
	ユース世界選手権大会(U18)	○		○	
シ ン ク ロ	世界ジュニア選手権大会(U20)		○		○
	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	アジア選手権大会	○			
	オリンピック大会予選会	○			
	ワールドカップ大会			○	
球	FINAワールドトロフィー	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
	アジアエージ選手権大会		○		○
O W S	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	パンパシフィック選手権大会			◎	
	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会		○		○
S	ジュニアパンパシフィック選手権大会	○		○	

事業の方針

I 競技大会開催事業

平成28年度は、リオデジャネイロ・オリンピック開催の年であり、競技会も一部、代表選手選考会を兼ねて実施される。競泳・飛込・水球・シンクロ・オープンウォーター・スイミングの日本選手権を中心に全国で開催される主要大会の企画・運営を行う上で、東京オリンピックを意識した質の高い運営を目指す。全国大会の実施に当たり大会企画と競技運営の役割分担を明確にし、各大会の開催地、主管・共催団体との連絡調整を密にして、企画、立案、運営、予算管理を行い、準備から大会終了までを統括する。日本選手権等への各加盟団体からの役員派遣や主要大会への本連盟からの役員派遣を通して、全国で統一した高いレベルの大会運営を目指す。

1. 国内競技会開催事業

(1) 【競泳競技】

① 日本選手権水泳競技大会 兼第31回リオデジャネイロオリンピック競技大会代表選手選考会	4月4日～10日	辰巳国際	東京
② ジャパンオープン2016(50m)	5月20日～22日	辰巳国際	東京
③ 日本大学・中央大学対抗戦	7月2日	辰巳国際	東京
④ 早稲田大学・慶応義塾大学対抗戦	7月3日	辰巳国際	東京
⑤ 日本実業団水泳競技大会	8月6日・7日	くろしお	高知
⑥ 全国国公立大学選手権大会	8月11日・12日	京都アクアリーナ	京都
⑦ 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	広島総合	広島
⑧ 全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	ダイエープロビス	新潟
⑨ 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月22日～26日	辰巳国際	東京
⑩ 日本学生選手権水泳競技大会	9月2～4日	辰巳国際	東京
⑪ 国民体育大会	9月9日～11日	盛岡市総合	岩手
⑫ 日本選手権水泳競技大会(25m)	10月25日・26日	辰巳国際	東京
⑬ 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京

(2) 【飛込競技】

① 日本室内選手権飛込競技大会 (翼ジャパンダイビングカップ)	6月3日～5日	辰巳国際	東京
② 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	福山市緑町公園	広島
③ 全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	ダイエープロビス	新潟
④ 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月22日～25日	大阪プール	大阪
⑤ 日本学生選手権大会	9月3日・4日	福山市緑町公園	広島
⑥ 国民体育大会	9月9日～11日	盛岡市総合	岩手
⑦ 日本選手権水泳競技大会	9月16日～18日	辰巳国際	東京
⑧ 国際大会派遣選考会	2月4日・5日	辰巳国際	東京
⑨ 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月25日・26日	辰巳国際	東京

- (3) 【水球競技】
- | | | | |
|--------------------------|------------|------------|-----|
| ① 日本高等学校選手権大会 | 8月17日～20日 | 児島地区公園 | 岡山 |
| ② 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会 | 8月22日～26日 | 門真スポーツセンター | 大阪 |
| ③ 日本学生選手権大会 | 9月2日～4日 | さがみはら | 神奈川 |
| ④ 国民体育大会 | 9月5日～7日 | 盛岡市総合 | 岩手 |
| ⑤ 日本選手権水泳競技大会 | 10月7日～9日 | 辰巳国際 | 東京 |
| ⑥ 全日本ユース(U15)選手権大会 | 12月24日～27日 | 倉敷屋内他 | 岡山 |
| ⑦ 全日本ジュニア(U17)選手権大会 | 3月17日～20日 | 柏崎 | 新潟 |
| ⑧ 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会 | 3月26日～30日 | 千葉国際 | 千葉 |
- (4) 【シンクロ競技】
- | | | | |
|--------------------------|------------|-------------|-----|
| ① 日本選手権水泳競技大会 | 4月29日～5月1日 | 辰巳国際 | 東京 |
| ② 日本シンクロチャレンジカップ2016 | 8月3日～6日 | 辰巳国際 | 東京 |
| ③ 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会 | 8月22日～25日 | 三重交通Gスポーツの杜 | 三重 |
| ④ 日本学生選手権 | 9月17日 | 横浜国際 | 神奈川 |
| ⑤ 国民体育大会 | 9月4日 | 盛岡市総合 | 岩手 |
| ⑥ 13～15歳ソロ・デュエット大会 | 1月21日 | 辰巳国際 | 東京 |
| ⑦ シンクロナショナルトライアル2017 | 1月22日 | 辰巳国際 | 東京 |
- (5) 【オープンウォータースイミング】
- | | | | |
|---------------|-------|---------|----|
| ① 国民体育大会 | 9月6日 | 釜石市根浜海岸 | 岩手 |
| ② 日本選手権水泳競技大会 | 9月25日 | お台場海浜 | 東京 |
- (6) 【その他】
- | | | | |
|-------------|-----------|------|----|
| ① 日本マスターズ大会 | 7月14日～18日 | 千葉国際 | 千葉 |
|-------------|-----------|------|----|

2. 国際競技会の開催事業

東京オリンピックに向けて国際競技会を積極的に誘致・開催する方針の下、今年度はアジア選手権を東京辰巳国際水泳場を中心に開催する。また昨年度に引き続き競泳ワールドカップを主管団体として成功に導く。本連盟からの国際大会への役員派遣もより充実させる。その一環としてリオデジャネイロ・オリンピックに競技役員を派遣する。

- (1) 【総合大会】
- 第10回アジア選手権
- | | | |
|--------------|------------|-----------|
| ① 期間 | 11月14日～20日 | |
| ② 競技種目・日程・場所 | | |
| (ア) 競泳 | 11月17日～20日 | 東京辰巳国際水泳場 |
| (イ) 飛込 | 11月17日～20日 | 東京辰巳国際水泳場 |
| (ウ) 水球 | 11月14日～20日 | 東京体育館 |
| (エ) シンクロ | 11月17日～20日 | 東京辰巳国際水泳場 |
- (2) 【競泳競技】
- | | | |
|-----------------|------------|-----------|
| FINAワールドカップ東京大会 | 10月25日～26日 | 東京辰巳国際水泳場 |
|-----------------|------------|-----------|
- (3) 【水球競技】
- | | | |
|----------------------------|-----------|---------|
| 男子ワールドリーグインターコンチネンタルトーナメント | 5月10日～15日 | 横浜国際プール |
|----------------------------|-----------|---------|

3. 各競技委員会事業

(1) マーケティング事業

2020年東京オリンピック開催が決定し、協賛企業が増えている。今後も強化事業との更なる連携を図るとともに新たな協賛企業の獲得に努めたい。特に今年度開催されるリオデジャネイロ・オリンピックや、日本で開催されるアジア選手権、昨年度から実施された「水泳の日」に向けて積極的な事業展開を行う。

(2) 競技事業

本連盟主催大会では、各主要大会の開催地加盟団体や全国高等学校体育連盟・日本中学校体育連盟等のスポーツ団体と連絡調整を密にして、準備から大会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。特に昨年から同時開催となった全国高等学校選手権と全国中学校水泳競技大会については、派遣役員の適正な配置などに配慮する。また、競泳競技規則の正しい適用と円滑な大会運営を担う競技役員の資質向上を図る。アジア選手権においては、アジア水泳連盟（AASF）及び国際水泳連盟（FINA）との連携の下、国際競技会としての円滑な実施を目指し、2020年東京オリンピックへの布石とする。

(3) 学生競技会事業

日本学生選手権水泳競技大会をはじめとする全ての学生大会の成功に向けて全力で取り組む。また、全国代表者会議を開催（年4回）し、各支部間相互の連絡融和を図り、厳正な学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。

II 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、社会的な基盤を整備し、その水準を維持することにより、更なる水泳競技の普及発展を図る。

1. 競技者登録事業

水泳競技大会への参加者やその記録を管理するため、競技者（選手・団体）を登録管理する事業を行う。競技者登録システム（Web-SWMSYS）の安定稼働と機能改善を行うとともに、登録料の年度内処理について周知を図る。

2. 競技規則制定事業

国際水泳連盟（FINA）の競技規則との整合性を図るとともに、最新版の全競技規則の改訂情報などをWEBを通じ、適宜情報発信を行い、全国統一した理解・共通認識の下で、選手が安心して競技に取り組める環境整備を実施する。

3. 競技役員養成・登録事業

本年度も「全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指し、本連盟の主催大会における各

加盟団体競技委員長等の実技研修も引き続き行う。また、例年通りブロック研修会並びに加盟団体主催の研修会を実施して、参加者の募集を積極的に行い、全国各地で統一感が得られるように取り組む。

また、公認競技役員と公認審判員の更新業務を円滑に行うとともに、管理・活用についての研究を継続する。

4. 競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、これを管理する事業を行う。各地で開催される公認公式競技会の3日以内の記録結果報告については、各地の情報システム担当者の協力により、記録結果の管理事業も順調に推移している。今後は、記録管理系システム環境の整備による、記録ランキングシステムと連携したモバイル機器（携帯・スマホ）の対応拡大とシステム保全作業の効率化を図る。

5. 施設用具公認推薦事業

競技場となるプールの新規公認及び更新登録を行う。また、競技にかかる施設用具や水泳競技に関連する企業との連携を図り、公認推薦規程に則り、公認推薦事業を行う。今年度から主要大会で導入される背泳ぎの補助装置「バックストローク・レッジ」が円滑に使用されるようにする。

6. アンチ・ドーピング事業

国際的なドーピング防止活動の一環として、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と連携し、主催大会においてドーピング検査（競技会検査）を実施する。選手の権利を守る立場であるNF代表役員を主要競技大会のドーピング検査会場に配置する。また、競技会でスポーツファーマシストによる相談ブースを設け、選手や指導者に薬の使用方法等についてアドバイスやジュニア選手を対象にナショナル合宿においてアンチ・ドーピング講習による啓発活動を行う。

III 選手派遣事業

派遣事業は、本連盟の財源はもとより国の補助金や助成金など公的資金を使う以上、評価の義務が問われる。大きく飛躍するための計画・準備等から始まり、オリンピックに向けた競技力向上のために強化事業及び派遣事業がより効果的に実施されるよう、水泳界の英知を結集して総力戦で臨む。

1. JOC事業

(1) 第31回オリンピック競技大会

- | | | |
|-----------|------------|---------------|
| ① 期間・場所 | 8月5日～8月21日 | ブラジル・リオデジャネイロ |
| ② 競技種目・日程 | | |
| (a) 競泳 | 8月6日～13日 | |
| (b) 飛込 | 8月7日～20日 | |
| (c) 水球 | 8月6日～20日 | |

- (d) シンクロ 8月14日～19日
- (e) OWS 8月15日～16日

2. 特別事業

(1) 第10回アジア水泳選手権大会

- ① 期間・場所 11月14日～20日 日本・東京
- ② 競技種目・日程
 - (a) 競泳 11月17日～20日 東京辰巳国際水泳場
 - (b) 飛込 11月17日～20日 東京辰巳国際水泳場
 - (c) 水球 11月14日～20日 東京都体育館プール
 - (d) シンクロ 11月17日～20日 東京辰巳国際水泳場

(2) 第13回FINA世界水泳選手権大会2016 (25m)

- ① 期間・場所 12月7日～11日 カナダ・ウインザー
- ② 競技種目・日程
 - (a) 競泳 12月7日～11日

IV 選手強化事業

最大目標であるリオデジャネイロ・オリンピックで、ロンドン大会後の強化5部門が評価される。リオ大会終了と同時に『さあ、東京』と良くも悪くも報道されることは間違いなく、2020へ加速できる結果を上げるべく取り組む。競泳は金メダルを含む過去最多メダル獲得、シンクロはメダル獲得、飛込・水球・OWSは上位入賞を目指す。また2020東京オリンピックに対するロードマップは、机上の空論にならぬよう強化状態を確認する意味も含めて、月一回の特別強化本部会議を実施して5部門の進捗状況を把握する。

1. 競泳強化事業

2015年カザン世界選手権では、瀬戸大也選手、星奈津美選手、渡部香生子選手が金メダルを獲得し、リオデジャネイロ・オリンピックの内定を決めた。目標の複数の金メダル獲得は、オリンピック前年としての大きな成果となったが、全体的にメダル獲得数が半減しておりオリンピックに向けて、メダル候補に挙がっている選手たちが今後どうメダルを獲得するかという大きな課題が残った。

ユニバーシアード競技大会では5つの金メダル獲得、また世界ジュニア選手権でも3つの金メダルを獲得し、競泳界の層の厚さを表す結果となり、世代を通じての強化が軌道に乗り始めた。

長期的な目標を2020年東京オリンピックに向けて「58種目フルエントリー」、「29種目以上決勝進出」、「複数の金メダル及び二桁のメダル獲得(自由形種目を含む)」というミッションを掲げて三年が経ち、2020東京オリンピックを見据えていく中でリオデジャネイロオリンピックをこの長期的目標の現状把握及び対策を図る試金石としても活用していきたい。

昨年に引き続き各国際大会に向けての強化合宿に加え、4月の日本選手権終了後から、ゴールデンウィーク期間、ジャパンオープン前と3回のオリンピック代表合宿を行う。オリンピックリレー強化合宿も実施する。継続して下期に実施しているインターナショナル合宿(年2回)は JISSで行う。またリレーや弱点種目に特化した合宿も計画している。また、下期には日本で開催されるアジア選手権、カナダでの世界選手権(25m)へ代表を選考し、派遣していくことで、2020年に向けての第一歩とする。

ジュニア強化(高校生及び中学生)に関しては、8月ジュニアパンパシフィック大会に代表を選考し派遣する方針である。ブロック代表国際大会派遣は、引き続きシンガポールに派遣し強化する。また、国内強化は中央と地方で行い、第37回ナショナル強化合宿(中央:12月15日～23日)とジュニアブロック合宿(10地域)、エリート小学生合宿は年2回(春・秋)継続して合宿強化を実施する。昨年度から行っているジュニア SS 育成合宿も継続して実施する。

(1) 国際競技会

①	オリンピックプレ大会	4月	ブラジル・リデジヤネロ
②	ヨーロッパグランプリ	6月	ヨーロッパ
③	オリンピック競技大会	8月	ブラジル・リデジヤネロ
④	ジュニアパンパシフィック選手権	8月	アメリカ・ハワイ
⑤	ワールドカップ	8月～10月	ヨーロッパ・中東・アジア
⑥	アジア選手権	11月	日本・東京
⑦	世界短水路選手権	12月	カナダ・ウィンザー
⑧	選抜遠征	2月	オーストラリア
⑨	ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール

(2) 強化トレーニング合宿

①	海外合宿(フラッグスタッフ・シェラネバダ)		
②	オリンピック代表合宿	4月・5月	JISS
③	オリンピック高地合宿	6月～7月	フラッグスタッフ/シェラネバダ
④	オリンピックリレー合宿	6月～7月	鈴鹿
⑤	オリンピック調整合宿	7月～8月	ブラジル・サパウロ
⑥	ジュニア・パンパシ合宿	8月	JISS
⑦	世界短水路合宿	10月	未定
⑧	世界短水路合宿	11月	未定
⑨	エリート小学生合宿	4月・9月	未定・JISS
⑩	ジュニア SS 育成合宿	各月	JISS/近畿大学等
⑪	弱点強化合宿/インターD合宿	未定	未定
⑫	ナショナル合宿	12月	鈴鹿・富士
⑬	インターナショナル合宿	12月・2月	JISS
⑭	地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県

(3) コーチ派遣・招聘

①	ASCA会議	9月	アメリカ
---	--------	----	------

(4) 企画・研修及び講習会

①	全国強化コーチ会議	10月	東京
②	ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京(クリニック)
③	ブロック合宿担当者会議	10月	東京
④	強化コーチ巡回指導	12月	ブロック各地

2. 飛込強化事業

2020年東京オリンピックでメダル獲得を可能にするためには、2016年リオデジャネイロ・オリンピックの結果は非常に重要となる。リオデジャネイロ・オリンピックでは、個人種目・シンクロダイビングにおいて複数名8位入賞を目標とする。代表選手は、FINA グランプリ2大会（カナダ・イタリア）で最終調整を行い本戦のオリンピックに臨む。まずは2016年リオデジャネイロ・オリンピック、さらに2020年東京オリンピックを視野に入れ、①シンクロ種目を見据えた個の強化（高難易度種目の習得）、②重点種目シンクロチームの継続的長期強化③若手選手の育成の3点を重要目標とし取り組む。所属練習を重要視しながら国内強化合宿では、さらに競技力向上と安定度を高める充実した合宿を実施する。特に2016・2020年オリンピックに向け、ピークを迎える有力なシニア・ジュニア選手への投資比重を高める。ナショナルチームは国内事前合宿を充実させ国際大会（FINA・GP・アジア選手権等）に挑ませ、競技会強化として好成績を残す。またジュニア強化では、FINA あるいは AASF が主催する国際大会への派遣を積極的に進めていく。世界各地のジュニア大会や合同合宿等の参加を推進し、世界ジュニア選手権をはじめとしシニア競技会（FINA・GP）に出場させ入賞につなげていきたい。また、2012年度から始めた小学生合宿をさらに進化させ早期から国際的に通用する選手育成を目指し、タレント性豊かなジュニア選手を JISS を核とした強化拠点に集めた強化を継続する。エリートアカデミー制度導入は3年目となり選手5名を中心に JISS を核とした NTC 競技別強化体制の確立をさらに充実させたい。オリンピック強化チーム（ナショナル）、ナショナル B チームと共に様々な経験を積ませることで精神面を大きく成長させ飛込競技の特性を踏まえた勝負強い選手の育成を目指す。そして、念願のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設が2016年1月スポーツ庁から東京辰巳国際水泳場が指定され、国内強化に拍車を掛ける予定である。

(1) 国際競技会

① FINA-GP(カナダ)	4/7～10	カナダ・ガティノー
② Inter-Youth(ドイツ)	4/21～24	ドイツ・ドレスデン
③ FINA-GP(イタリア)	6/24～27	イタリア・ボルザノ
④ 世界ジュニア選手権	未定	メキシコ
⑤ FINA-GP(シンガポール・マレーシア・オーストラリア)	10/21～23	
⑥ アジア選手権	11/17～20	日本・東京
⑦ COMO Inter(カナダ)	12/1～4	カナダ・モントリオール

(2) 強化トレーニング

① ナショナル海外合宿助成事業		
② ナショナル強化国内合宿		
(ア) 第1回オリンピック・ナショナル強化合宿	5/15～25	鈴鹿
(イ) 第2回オリンピック・ナショナル強化合宿	7/3～13	鈴鹿
(ウ) 第3回ナショナル強化合宿	11/9～13	東京辰巳
(エ) 第4回ナショナル強化合宿	2/7～27	東京辰巳
③ ナショナル B スクアット強化		
年2回の実施予定	12月・1月 or 2月	富士
④ ジュニア強化		

年2回の実施予定	12月・1月 or 2月	富士・鈴鹿
世界ジュニア事前合宿		
インターユース事前合宿	3月	東京辰巳
⑤ エリート小学生強化	12月(東京辰巳)	1月(鈴鹿)
年2回の実施予定		

(3) エリートアカデミー活動 通年 JISS+辰巳・千葉国際・青木町公園

- ・ ナショナルトレーニングセンターの施設を十分活用し他競技を含めた専任のトップレベルの指導者による長期的・集中的な競技スキルの指導プログラム
- ・ ライフスキル、コミュニケーションスキルを身につけさせ、社会性、人間性を向上させるための知的能力開発プログラム
- ・ 共同生活を通じて必要な社会規範を意識させ、日本のトップアスリートと触れ合うことで、競技に対する心構えや態度を養うためのプログラム
- ・ 国際人として海外で活躍できるようにするための語学教育プログラム
- ・ 基本的な学力の定着を図るための学習(補習)プログラム
- ・ 国際大会派遣による競技力向上並びに海外選手との交流を図り国際的資質を高める

(4) 企画・研修会及び講習会

① FINA Diving Certification Course for Judges	6月2日・3日・4日	東京辰巳
② 強化コーチ会議	10月大阪・他	数回
③ ブロック代表者会議	12月3日・4日	東京NTC
④ 公認審判員研修会		
(ア) A級・B級公認審判員中央研修会	5月・6月・7月	他数回
(イ) C級公認審判員研修会	中央研修会後	随時

3. 水球強化事業

平成28年度は、32年ぶりに出場権を獲得した男子代表チームが「リオデジャネイロ・オリンピック」に出場する。出場する各国は、すべて格上の強豪国であり厳しい戦いとなることが予想されるが、強化に全力を尽くし「2020年東京オリンピック」につながるよう、挑戦者として戦っていききたい。また、本年5月に横浜で開催される「FINA水球ワールドリーグ」では、ファイナル進出を目指す。下期は、東京で開催される「アジア水泳選手権」に男女代表チームが出場し、男女共に「2017年ブダペスト世界選手権」のアジア大陸代表獲得を目指す。

代表チーム編成については、2012年度から4年のスパンをかけ戦略的に世代交代を進めることに成功した。本年度は「2020年東京オリンピック」を見据えた新たな4年スパンとなり、育成・強化のスタートとなる重要な年度となる。

ジュニアの育成・強化事業は、男女U19代表チームを「水球アジアジュニア選手権」、男女U18代表チームは「世界ユース選手権」に派遣する。それらの大会では代表チームが構築した「日本独自のスタイル」を戦術とし、国際大会を経験させる。

また、代表主力選手の欧州強豪クラブへの長期派遣事業と水球強豪国での合同合宿及び強化試合は、内容を見直しながら継続していききたい。

代表選手選考方法は、昨年同様に国際試合と主要国内競技会を選手選考の場とすることで、選手間の競争意識を持たせることに成功した。また、国内競技会のレベルアッ

プにもつながっているので平成28年度も引き続き継続していく。

(1) チーム派遣

① 男子ワールドリーグ インターコンチネンタルトーナメント	5月10日～15日	日本・横浜
② 女子ワールドリーグ インターコンチネンタルトーナメント	2月16日～21日	アメリカ・ルイスビル
③ 男子ワールドリーグ・スーパーファイナル	6月21日～26日	中国・未定
④ 女子ワールドリーグ・スーパーファイナル	6月7日～12日	中国・上海
⑤ アジア選手権	11月14日～20日	日本
⑥ 女子世界ユース選手権	12月5日～11日	NZ・オークランド
⑦ 男子世界ユース選手権	8月28日～9月3日	モンテネグロ・ポトゴリツァ
⑧ 男女アジアジュニア選手権	7月21日～28日	インドネシア・パレンバン

(2) 国際大会派遣選手選考委員会

① ワールドリーグ・スーパーファイナル	2月27日・4月	2015・16年度選考対象試合・他
② リオデジャネイロ・オリンピック	2月27日	2015年度選考対象試合・他
③ 男女アジア選手権	10月	2015・16年度選考対象試合・他
④ 男女世界ユース選手権	7月10日	2015・16年度選考対象試合・他
⑤ 男女アジアジュニア選手権	6月	2015・16年度選考対象試合・他

(3) 強化トレーニング合宿

① 海外拠点強化合宿（男女）	7月・10月・11月	豪州・ハンガリー他
② 国際競技会国内事前合宿	4月-6月・8月・9月	J I S S 他
③ ナショナルチーム強化合宿（男女）	4月-9月・11月-3月	J I S S 他
④ 男女ジュニアユース研修（男女）	12月27-30日	岡山・倉敷
⑤ 海外選手派遣事業		ヨーロッパ 通年

(4) チーム招聘・コーチ招聘

① 男子米国・豪州代表合同合宿	7月・11月	J I S S
② 女子米国・豪州合同合宿	7月・11月	J I S S

(5) 企画・研修及び講習会

① 男女強化コーチ会議	6月・8月・9月・10月・3月
② 全国コーチ会議・研修会	10月
③ 国際情報収集	
④ 日本代表ゲーム分析・評価事業	
⑤ 強化指定選手研修会	4月・11月
⑥ コーチ研修会	10月
⑦ 審判指導者合同研修会（国際トップ審判員の招聘）	10月
⑧ ジュニア指導者研修会	12月

4. シンクロ強化事業

平成28年度は、リオデジャネイロ・オリンピックに照準を合わせ、デュエット及びチームの2競技において表彰台復活を目標とする。代表選手を平成27年9月から3段階で選抜き、平成27年11月より強化合宿を始動した。メダルを目指し戦うためには、チーム全体

のスケールの大きさ、ダイナミックさが不可欠である。そこで代表選考会においては、これまでの選考方針を踏襲し身長減点を採用、大型で技術力の高い選手を選考する。代表強化においては、チーム・フリーとデュエット・フリーの演技プログラムを刷新し、これまで同様に身体体積の高さ、リフト強化、スケール感アップなどを重点課題とし、長期強化合宿を積む。リオデジャネイロ・オリンピックの試合プールが屋外であることから、アウトドアプールを用いた海外強化合宿も実施する。同時性、正確性をさらに突き詰め、2016年3月のリオデジャネイロ・オリンピック世界最終予選でのチーム出場権獲得を経て、オリンピック本番での表彰台を目指す。

さらに、2020年東京オリンピックを見据え、B代表とジュニア代表の強化を継続する。B代表は昨年度よりチーム派遣とし、次世代の選手強化を押し進めてきており、今年度もスペインオープン（7月、スペイン）にチームを派遣する。ジュニア代表はFINA世界ジュニア選手権に派遣し、前回の好成績を上回ることを目標とする。また、東京オリンピック対策として平成26年秋より開始したジャンパー育成プロジェクトを継続、今年度からはセカンド選手の育成も開始し、専門講師による特別トレーニングを積み、リフト強化を促進する。

ユース年代（11～14歳）については、全国8ブロックより選抜された有望選手を対象にユース有望合宿を実施する。有望選手からさらにエリート強化選手を選抜し、エリート強化合宿並びに国際大会派遣を通して、次代の中心戦力になる選手を着実に育てていく。

選手強化と並行してトップレベルの指導者と審判員の育成も重要な柱である。コーチキャンプ、ナショナル審判強化研修等を通して、専門知識や指導技術の実践研修を行い、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。

(1) 国際競技会

① リオデジャネイロオリンピック	8月	ブラジル・リオデジャネイロ
② FINA世界ジュニア選手権	未定	未定
③ スペインオープン	7月	スペイン・
④ AASF 第10回アジア選手権	11月	東京・辰巳
⑤ 地中海カップ	7月	イスラエル・ネタニア
⑥ クリスマスプライズプラハ	12月	チェコ・プラハ
⑦ FINA ワールドトロフィ	未定	未定
⑧ フレンチオープン	3月	フランス・パリ

(2) 強化トレーニング

① リオデジャネイロオリンピック合宿	4月～7月	JISS・大阪
② リオデジャネイロオリンピック海外合宿	6月	グアム
③ リオデジャネイロオリンピック海外合宿	8月	ブラジル・サンパウロ
④ 世界ジュニア選手権合宿	5月～	JISS
⑤ スペインオープン合宿	5月～6月	JISS
⑥ アジア選手権合宿	9月～11月	JISS
⑦ 世界選手権2017合宿	11月～3月	JISS
⑧ 世界選手権2017ミックスデュエット合宿	秋～3月	JISS
⑨ ワールドトロフィ合宿	10月～12月	JISS
⑩ 東京五輪対策候補選手合宿	1月～2月	JISS

⑪ ジャンパー&セカンド育成プロジェクト合宿	秋～3月	
⑫ 全国選抜シニア中央合宿	12月	JISS
⑬ 全国選抜ジュニア中央合宿	12月	JISS
⑭ ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑮ ユースエリート育成特別強化合宿	10月～12月	JISS

(3) コーチ・役員 派遣・招聘

① 海外振付コーチ招聘	9月	JISS
② ヨーロッパ選手権視察研修	5月	イギリス・ロンドン

(4) 企画・研修及び講習会

① 全国強化担当者会議	12月	JISS
② ナショナルコーチ・国際審判員会議	9月	JISS
③ ブロック巡回指導ナショナルコーチ派遣	10月～3月	各ブロック
④ 全国コーチキャンプ	12月	JISS
⑤ ナショナル審判強化研修	9月～2月	JISS
⑥ 審判研修会、レフリー派遣	6月～3月	競技会開催地ほか
⑦ ユース・ブロックセレクション巡回	6月～7月	各ブロック
⑧ 競技者育成プログラムバッジテスト	4月～3月	各加盟団体
⑨ 代表派遣選手選考会、選考会申合せ会	9月～3月	JISS
⑩ 国際情報収集、競技力分析		

5. オープンウォータースイミング強化事業

オリンピックイヤーを迎え、前回のロンドン大会に続き男女各1名のリオオリンピックOWS出場権を確実に獲得する。そしてオリンピック本戦では男女共に8位以内入賞を第一目標に強化事業に取り組む。世界での競争力を高めるためには、基礎となる競泳力強化に加えて、海外強豪選手とのOWS競技経験による実戦力強化は不可欠である。4月から6月にかけて全米選手権、W杯へのオリンピック候補選手派遣、さらにリオオリンピックOWSの低水温を想定した冷水対策合宿なども含め万全の強化体制で挑む。また、2020東京オリンピックを見据えたジュニア選手育成も並行して進める。現在のOWS強化指定選手を中心に、競泳中・長距離選手からの適材発掘によるOWS選手層の拡大を進める。東京オリンピックに向けて競泳とOWSの連携を深め、OWS競技への挑戦機会を多く提供することで、双方にとって有用な強化体制を築き、選手強化と普及を図る。

(1) 国際競技会

① 全米選手権	4月	アメリカ・フロリダ
② リオ五輪最終予選会	6月	ポルトガル・セシャル
③ ワールドカップ	6月	ハンガリー・パトフルト
④ オリンピック	8月	ブラジル・リテジヤネロ
⑤ ワールドカップ	10月	中国・チュアン

⑥	ワールドカップ	10月	中国・香港
⑦	世界ジュニア選手権	未定	未定
⑧	全豪選手権	2月	オーストラリア
(2)強化合宿			
①	リオ五輪予選強化合宿	5月	静岡または新潟
②	リオ五輪予選直前合宿	6月	ポルトガル・リスボン
③	世界ジュニア選手権強化合宿	6月	神奈川または岡山(海)
④	リオ五輪強化合宿	6月～7月	静岡または新潟
⑤	リオ五輪直前第一次合宿	7月	アメリカまたはカナダ
⑥	リオ五輪直前第二次合宿	7月～8月	ブラジル・サントス
⑦	世界ジュニア選手権強化合宿	7月～8月	JISS
⑧	W杯中国大会強化合宿	10月	JISS
⑨	ナショナルチーム強化合宿	12月	愛媛・松山
⑩	全豪選手権強化合宿	未定	JISS
(3)企画・研修会及び講習会			
①	2020対策OWS説明会	未定	東京・辰巳
②	強化コーチ会議	10月	JISS

6. 科学事業

関係諸委員会、JISS、JOC と一層連携を深め、競技力向上に関する科学支援事業を展開する。選手・コーチへのレース分析データと映像データ（水上）の提供について、効率的な方法を検討し、国内の主要競技会で実施する。データの利用促進を含め、データベース化の検討を引き続き進める。教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会年次大会に協力する。また、同学会が行っている第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（2018年9月17～21日、筑波大学にて開催予定）の計画・準備活動に協力する。学会等における最新の科学的知見を広報委員会と連携し、月刊水泳等で広く周知することに努める。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供と、養成講習会の講師派遣等に協力する。その他、競技力向上に関する科学サポートを推進し、エリート小学生やナショナル選手の合宿等で科学情報の収集や提供に協力する。また、飛込、水球、シンクロ、OWSの各委員会及び加盟団体が行う科学サポートに協力する。

(1) 競泳のレース分析・撮影

- ① データの公開・利用の促進並びにデータベース化の検討
- ② 第92回日本選手権大会 競泳競技におけるレース分析
- ③ ジャパンオープン2016(50m)におけるレース分析
- ④ 第10回アジア水泳選手権2016競泳競技におけるレース分析
- ⑤ 第84回日本高等学校選手権水泳競技大会、第56回全国中学校水泳競技大会、第39回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会、第92回日本学生選手権水泳競技大会におけるレース分析（決勝レース）
- ⑥ FINA 競泳ワールドカップ東京2016及び第58回日本選手権競泳競技(25m)におけるレース撮影

(2) 教育・啓発活動

- ① 2016年度 日本水泳・水中運動学会年次大会への協力
- ② 第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（2018開催）の計画・準備活動への協力
- ③ 指導者資格付与制度への協力

(3) 競技力向上に関する科学サポートの推進

- ① 競泳エリート小学生研修合宿における科学サポート（春・秋）
- ② 競泳ナショナル強化合宿における科学サポート（2ヶ所）
- ③ 水球、飛込、シンクロ、OWSの合宿等における科学サポート
- ④ 日本障がい者水泳協会などの加盟団体への科学サポート

7. 医事事業

平成27年度は、主要競技大会・強化合宿でのメディカルサポート活動を計画通り実施し、スタッフ間の情報交換や研究報告活動を行った。

平成28年度は、関係諸委員会、JISS、JOCとの良好な連携を保ち、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動及び研究報告活動を行う。具体的には、各種競技会における救護活動、国際競技会大会選手団に対するメディカルサポート、強化対象選手のメディカルチェック、アンチ・ドーピング活動、障害予防プログラムの考案と実践、JISSクリニック・リハビリテーション室における医事相談・トレーナー活動、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的としたメディカルサポートミーティングを実施する。また東京オリンピックでの活躍が期待されるジュニア世代へのメディカルサポート活動としてジュニア合宿へのメディカルスタッフの派遣によるメディカルチェック、障害予防対策、女性選手のサポート等を行う。さらにこれらの活動を円滑に行うために各都道府県水泳連盟（協会）の医事関連部門との連携を深める。

教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会への講師派遣等の協力を行う。

(1) 競技大会における救護・支援活動

(2) 競技選手へのメディカルサポート活動

- ① 選手のコンディショニング及び障害・疾病の管理
- ② アンチ・ドーピング活動
- ③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防プログラムの実践
- ④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動及び調査研究活動
- ⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有及び連携強化

(3) 教育・啓発・研究活動

- ① 日本水泳ドクター会議への協力
- ② 日本水泳トレーナー会議への協力

- ③ スポーツ医学・健康医学セミナーへの協力
- ④ 障害を予防するための研究・予防プログラムの普及
- ⑤ 指導者養成講習会への講師派遣

V 普及事業

本連盟にとって強化と普及は、二本柱の重要課題であり、平成28年度も指導者養成事業、マスターズ水泳を主とした生涯スポーツ事業、国体正式種目化が決定したOWS普及事業、日本泳法保存事業、月刊水泳等の機関誌発行事業、さらにホームページを活用した広報事業に取り組む。また、今年2回目となる『水泳の日』を通して、水泳愛好者、水泳ファンの拡大を目指すとともに、水難事故防止の側面からも全国的なイベントとなるよう推進する。

1. 指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上に当たる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、(公財)日本体育協会と連携協力し指導者養成事業を実施する。また、(公財)日本体育協会が実施している指導者資格再登録及び公認スポーツ指導者管理システム「指導者マイページ」の活用を三委員会が足並みを揃えしっかりと取り組む。

(1) 地域指導者養成事業

- ① スポーツ指導者に関する事業
 - (a) (公財)日本体育協会 指導員・上級指導員新規養成事業の推進
加盟団体による指導員養成
 - (b) ブロック別主管加盟団体による上級指導員の養成(広島県)
 - (c) (公財)日本体育協会 指導員・上級指導員資格取得者の登録及び有資格者の更新
 - (d) (公財)日本水泳連盟 基礎水泳指導員に関する事業
 - (ア) 基礎水泳指導員資格取得者の登録
 - (イ) 養成に関わる督励・指導・助言
 - (ウ) アスリート基礎水泳指導員資格免除認定審査
 - (e) 免除適応校専門科目検定/全国4会場(北海道, 東京, 名古屋, 大阪)
 - (f) マスター指導員中央研修会の実施
 - (g) 安全対策の普及徹底
 - (h) 全国地域指導者(普及)委員長会議の開催
 - (i) 各種依頼事業への協力
- ② 普及に関する研究事業
 - (a) 総合保障制度への加入推進
 - (b) 加盟団体各委員長会議・研修会の開催

(2) 競技力向上コーチ養成事業

- ① 資格審査（年2回）の実施
- ② コーチ資格の新規登録・再登録・更新登録事業
- ③ コーチ研修会事業（コーチ11会場・上級コーチ2会場）
- ④ コーチ養成講習会事業の推進
- ⑤ 免除適応コース認定校の開拓

(3) 水泳教師養成事業

- ① 水泳教師新規養成事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - (a) 適応コース講習検定会の実施（日本水泳連盟担当）
 - (b) 適応コース大学検定会の実施（日本水泳連盟担当）
 - (c) 適応コース認定校の新規開拓（日本水泳連盟担当）
 - (d) 新規養成コース講習検定会の実施（日本スイミングクラブ協会担当）
 - (e) 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ② スキルアップ講習会の開催（日本水泳連盟担当）
- ③ 水泳教師資格の新規・更新登録事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ④ 水泳教師資格更新研修会事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ⑤ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

2. 生涯スポーツ事業

マスターズ水泳では、日本マスターズ水泳協会及び日本体育協会と連携しながら、日本スポーツマスターズ大会の更なる発展を目指し、開催地の大会企画・運営を支援していく。

泳力検定事業では、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門として位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進していく。

また、本連盟の2020年に向けての構想の一環として、水泳4団体の主催事業として8月14日を「水泳の日」と制定。水泳を通して子供から大人まで多世代にわたり水泳を楽しむことができるイベントを行っていく。本年、第2回目のイベントを東京辰巳国際水泳場（8/14）にて開催を予定。そのために、実行委員会を中心として各委員会・関連団体と連携を図り企画・立案・運営に全力を尽くす。

(1) 日本スポーツマスターズ事業

- ① 日本スポーツマスターズ2016水泳競技秋田大会」の開催
9月17日～18日 秋田県 秋田県立総合プール
- ② 日本マスターズ水泳協会及び日本体育協会と連携しながら、大会の更なる発展を目指す

(2) 「水泳の日」イベント開催事業

- ① 2016年8月14日 東京辰巳国際水泳場にて、水泳4団体による第2回「水泳の日」を開催
- ② イベントに関わる会議の企画・立案・運営
- ③ 各委員会及び関連団体との連携・連絡調整を密にして取り組む

(3) 泳力検定事業

- ① 泳力検定者及び合格者の増加を図る
- ② 特別泳力検定会（10会場以上）等の企画・立案・運営
- ③ 泳力検定優秀団体の表彰

(4) 優秀登録団体表彰事業

- ① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体について表彰を行う。

3. OWS普及事業

- (1) OWSスイムクリニック、OWS検定会の開催
- (2) OWS審判員の養成（審判講習会の開催）
- (3) OWS指導員の養成（指導員講習会の開催）
- (4) OWSコーチ資格、上級コーチ資格規程の制定
- (5) 認定OWS大会の拡大

4. 日本泳法保存事業

それぞれ年1回開催する日本泳法大会及び日本泳法研究会を通じ、現存13流派泳法の保存と普及を図る。日本泳法大会については、採点競技での演技の評価が適正に行われることが選手のモチベーションアップにつながり、また指導者を目指す人材育成に不可欠であることから、原則年2回開催の審判研修の充実を図る。一方、競技経験を持たない、あるいは中高年から日本泳法を始めた泳者等には、達成目標となるよう一昨年より新たに設けた3資格（修水・和水・如水）への受験を勧めるとともに、日本泳法研鑽会への参加資格を従来の「游士保有者のみ」から「修水」及び「和水」保有者にまで拡大し、泳法の完成度を自己評価できる機会とする。

- (1) 日本泳法研鑽会 5/15 千葉県国際総合
- (2) 第61回日本泳法大会 8/20-22 門真スポーツセンター
 - ・ 泳法競技、同ジュニア、団体泳法競技、同シニアクラス、支重競技、横泳ぎ競泳
 - ・ 游士、練士、教士、範士、修水、和水、如水の資格認定
- (3) 第65回日本泳法研究会 3/11-12 横浜国際プール
 - ・ 課題「向井流」（講義会場は未定）

5. 機関誌発行事業

月刊水泳の発刊に当たっては、関係者へより速く詳しい内容を掲載するとともに、水泳ファンにも購読してもらえ「楽しい」誌面も掲載する。

6. 広報事業

(1) ホームページ

- ① 「より速く」を目指し、総務委員会、情報システム委員会と共同歩調を取り、タイムリーな情報提供を行うとともに、ページ更新の簡素化に取り組む。
- ② 過去の記録を含めた歴史・記録ページ充実のための準備を開始する。

(2) 報道対応

オリンピックがあり、例年以上にマスコミ対応が必要となるため、競技委員会、総務委員

会、事務局等と連携して、正確な告知、迅速な対応を図る。

VI 組織運営のための共通事業

1. 総務関係事業

地域会議の開催

2. アスリート委員会事業

(1) アスリート委員会の開催

- ① FINA アスリート委員会への意見集約
- ② アスリートの取り巻く環境の整備
- ③ アスリートの知識・経験の積極的な活用

(2) アスリートとしての意識の高揚、啓発活動を行う

- ① 啓発冊子の作成、配布、呼びかけ
- ② アンチ・ドーピングの啓発活動
- ③ 社会貢献活動の実施、継続

3. その他の普及事業

- (1) ぱちャぼ等にかかるライセンス事業の推進
- (2) 水泳ビデオ・教本の発行

4. 特別委員会事業

- | | | |
|---|--------------|-------|
| (1) 財務委員会
免税募金事業の推進 | 財務委員長 | 堀 正美 |
| (2) 競技者資格審査委員会
競技者資格の審査 | 競技者資格審査委員長 | 坂元 要 |
| (3) 選手選考委員会
国際競技会派遣日本代表選手団の選考 | 選手選考委員長 | 青木 剛 |
| (4) 指導者養成委員会
指導者養成制度の推進と資格認定審査 | 指導者養成委員長 | 設楽 義信 |
| (5) 国際委員会 (FINA・AASF)
国際関係の情報共有推進と国際競技会の招致企画 | 国際委員長 | 緒方 茂生 |
| (6) アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピング活動の計画と推進 | アンチ・ドーピング委員長 | 泉 正文 |
| (7) スポーツ環境委員会
スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進 | スポーツ環境委員長 | 齊藤 由紀 |
| (8) 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導 | 倫理委員長 | 坂元 要 |

VII 組織運営及び財政基盤の確立

本連盟が策定した「ドリームプロジェクト～2020年に向けての構想」に基づいて、各専門委員会を中心に、事業内容の精査・充実を推進する。

また、本連盟が創立100周年を迎える2024年に向けて、「日本水泳界の総括団体として、これまでの100年をどう総括し、これからの100年とどう向き合うか」を念頭に置き、組織全体で学び、議論し、日本水泳界の未来を担う組織力の一層の充実強化に努める。

各種事業の遂行に当たっては、各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、スポーツ庁、日本体育協会、日本オリンピック委員会等の関連団体とも連携を図り実施していく。

財政面においては、全体の収支バランスを考慮しながら、有効適切な事業の執行、予算管理を行う。

なお、本連盟の組織運営及び財政の確立に際しては、関係者が一丸となって、各種コンプライアンスの徹底を図る。